

薬剤師イメージの測定と尺度構成

— 文系私立大学生を対象とした検討 —

伊 原 千 晶(京都学園大学人間文化学部)

三 保 紀 裕(京都学園大学経済学部)

問題と目的

医療の高度化・複雑化，少子高齢社会の進展に加え，院外処方率が65%を超えるなど薬剤師を取り巻く環境が大きく変化している。このような中，医療の質の向上及び医療安全の確保の観点から，薬局・薬剤師には最適な薬物療法を提供する医療の担い手としての役割が期待されている。

平成18年4月より，薬剤師国家試験受験資格を得るための教育年限は4年から6年に変更された。同年6月には改正薬事法・改正医療法・改正薬剤師法が可決され，病院のみならず薬局も医療提供施設となった。これは薬剤師の業務対象における「モノからヒトへ」の転換を意味している。臨床場面で患者・家族と接し，正確に薬歴や服用状況を聴取し，適切に服薬指導することが薬剤師の必須業務となり，「医療人としての薬剤師」養成が強く求められることになった。

6年制薬学部の一期生が卒業した平成24年4月の「月刊薬事」には，「薬剤師のアイデンティティを思い起こそう！」という特集が組まれている。その内容は「薬学6年制教育と薬剤師のこれから」(乾)，「法律からひも解く薬剤師の未来」(三輪)，「薬剤師が守るべき倫理」(土井)，「社会から求められている薬剤師像とは」(水巻)，そして「基礎薬学を臨床でどうやって生かすか(薬剤学・製剤学・薬理学・生理学・生化学・有機化学)」(中島ら)という章立てとなっている。この中では，薬学について「主として化学に立脚した『モノ』を対象とする学問はもとより，『ヒト』を対象と

する薬物治療に直接関連する学問を発展させることが求められてきた」(乾, 2012)ことが指摘されている。そのため、現在は様々な課題が存在するものの、それを解決して行けば、薬剤師は「近い将来到来することが確実視される本格的なセルフメディケーション時代をリードする確固たる存在ともなる」(三輪, 2012)と論じられている。この三輪(2012)の論考、および水巻(2012)の論考はいずれも平成22年4月の医政局長通知「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」(医政発0430第1号)を引用して、今後の薬剤師の在り方を論じたものである。なお、通知の内容は

- ①薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更や検査のオーダーについて、医師・薬剤師等により事前に作成・合意されたプロトコールに基づき、専門的知見の活用を通じて、医師等と協働して実施すること
- ②薬剤選択、投与量、投与方法、投与期間等について、医師に対し、積極的に処方提案すること。
- ③薬物療法を受けている患者(在宅の患者を含む)に対し、薬学的管理(患者の副作用の状況の把握、服薬指導等)を行うこと。
- ④薬物の血中濃度や副作用のモニタリング等に基づき、副作用の発現状況や有効性の確認を行うとともに、医師に対し、必要に応じて薬剤の変更等を提案すること。
- ⑤薬物療法の経過等を確認した上で、医師に対し、前回の処方内容と同一の内容の処方提案すること。
- ⑥外来化学療法を受けている患者に対し、医師等と協働してインフォームドコンセントを実施するとともに、薬学的管理を行うこと。
- ⑦入院患者の持参薬の内容を確認した上で、医師に対し、服薬計画を提案するなど、当該患者に対する薬学的管理を行うこと。
- (⑧・⑨は調剤に関する内容であるため、記載省略)

というものである。これは、日本薬剤師会がCDTM(Collaborative Drug Therapy Management)が実施された場合の薬剤師業務として挙げている、

病態・症状の把握，副作用モニタリング，病態や患者の希望を踏まえた処方変更・追加提案，治療目標に合わせた指導などを法的に基礎づけるものである。

しかし，実はこの通知は，単なる業務内容の拡大を意味しているわけではない。法律家(弁護士)である三輪(2012)の解説に拠れば，この通知の前文部分において，各専門職の「責任の所在を明確化」することが求められている。つまり，薬剤師も薬の専門家として「患者に対して最後(エンド・ポイント：EP)まで責任をもつこと」，すなわち「医師がそうであるように，患者が治るまで責任をもつ，退院するまで責任をもつ，ときには亡くなるまで，薬剤師もしっかりと責任をもって関わること」が要求されている。そのため，「調剤薬の交付のしっ放しはもちろん，お決まりの服薬指導文句の繰り返し，前回と同じ医薬品説明パンフレットの交付などは，いずれも許されないことになる。」と指摘している。それだけではなく，この通知に従えば，薬剤師は薬物治療について単なる提案ではなく，医師と「事前に作成・合意」したプロトコルを「協働実施」するための処方を「積極的に提案」することが求められる。そして患者に対しても，在宅患者も含めて副作用の把握や有効性の確認，服薬指導を行い，入院の際には医師に服薬計画を提案できるように持参薬の内容や服薬状況を確認すること，更には化学療法のインフォームドコンセントについても，医師とともに実施することが求められている。このため，「新しい薬剤師」は責任をもって医療に携わる「医療人」として認識されることが必要となってきている。

しかし，実際はこのような状況とは異なっているようである。例えば水巻(2012)は，医療現場の薬剤師は「おとなしい仔羊の感は否めない。医療スタッフのなかで目立たないばかりか，発信力が弱い気がする」，薬のプロなのに「医療の現場ではなかなかその存在が見えづらい」「医師や看護師に比べて職業意識が低く，目立たない」と述べている。また，三輪(2012)は，今後の薬剤師は薬の「責任者」であり，「薬の専門家にとどまる限り，薬剤師はいつまでも『顔の見えない薬剤師』であり続ける」とし，

今までは「薬剤師の顔が見えないから、薬害について患者は医師や病院を訴える。薬剤師の顔が見えないから、医師や病院は『薬害は薬剤師の責任だ』とは反論しない。裁判官も薬剤師の顔が見えないから、そのまま医師や病院の責任だとして判決を下す。」という事態であったのだ、と主張している。すなわち、医師・看護師とは異なり、今まで「医療人としての薬剤師」というイメージは定着していないことが推察される。

では、現在の薬剤師はどのようなイメージが持たれているのであろうか。他の医療人のイメージとは異なるのだろうか。医療人として真っ先に想起されるのは、医師と看護師であろう。医師のイメージに関する調査はほとんどみられないが、看護師については一定の研究の蓄積がある(なお、古い調査では看護婦となっているが、以下はすべて看護師で統一する)。例えば江口・寺沢(2006)は、1980年から2002年の間に実施された、因子分析を用いた看護師イメージに関する先行研究を整理し、それに基づいた調査を実施している。その結果、「やすらぎ型イメージ」「専門職熟練型イメージ」「美的調和型イメージ」「安全配慮型イメージ」を抽出し、それらのイメージ得点は、横断研究・縦断研究のいずれにおいても、学年進行とともに低下する傾向を示したことを報告している。村田・長家(2000)では、看護学科・衛生技術学科・放射線学科の新生児に対する職業イメージ調査を実施している。結果、看護学科の学生は他の専門分野の学生よりも「患者とのかかわりや患者との接近した関係をイメージしている」のに対して、衛生技術学科では「表に出ず陰で医療を支える職業、また閉ざされた室内で機械相手の細かい作業をしている」イメージであり、対人関係を表すようなイメージ語句は見当たらなかった、そして放射線学科では技術的・機械相手というイメージであり、患者との直接対応といったイメージもあるものの、その割合は少ないという差異が認められた。

また少々古いデータではあるが、看護師のイメージについては政府による調査も実施されている(内閣府政府広報室, 1993)。全国の15歳以上3000人を対象とした結果から、看護師のイメージは「優しい、温かい(64.0%)」

「親切である(61.5%)」「頼りになる(50.4%)」「責任感がある(48.3%)」であり、望ましい看護師については「優しさ、おもしろいがある(79.5%)」「親切である(66.0%)」「知識が正確で、注射などの技術が上手である(57.4%)」「責任感がある(51.2%)」ということが示されている。また、看護師の仕事イメージとしては「人命にかかわる尊い仕事(72.5%)」「夜勤などがあって、生活が不規則な仕事(62.3%)」「忙しくて、きつい仕事(58.5%)」「世の中や人のためになる仕事(50.8%)」「使命感、責任感を伴うやりがいのある仕事(49.1%)」といったイメージが明らかになっている。

看護職を中心とした研究の蓄積の背景には、保健・看護職をめぐる状況の変化があるようである。看護職においては、看護教育の高等化や専門性の深化、医療の高度化に伴い、看護職としてのキャリア発達、教育のあり方を検討する必要性が生じていることが指摘されている(小海・津島, 2007)。それに対して上述の通り、薬剤師においても「医療人」としてのあり方が求められているのが現状であるが、薬剤師を対象とした研究はほとんどなく、検討の余地が大いにあると考えられる。

そこで本研究では、薬剤師の職業イメージについて、一般の大学生を対象とした探索的調査を実施し、現在の薬剤師像がどのようなものであるかを把握するとともに、「新しい薬剤師」として求められるイメージとの差異について検討を加えることを試みる。その際には、具体的な薬剤師イメージを複数の観点から捉えるため、本研究では「職業価値観」および「イメージ」の2つの指標から検討を行う。職業価値観とは「職業(労働)に対する個人の価値づけ」を示すもの(藤本, 1982; 三川, 1991; 菰田, 2006)であり、薬剤師に関する特徴を捉える上でも有効な指標であると考えられる。薬剤師の特徴をより明確なものとするために、本研究では「医療人」の典型として捉えられている「医師」「看護師」を比較対象として置くこととする。また、医療系とは異なる職業との対比から、大学生などがイメージしやすい「コンビニ店員」を比較対象に加えることとした。最後に、薬局(ドラッグストア)などで顧客とやりとりをする過程などは、カウンセ

ラーがクライアントの話を聴く過程に通じる部分があると考えられるため、「カウンセラー」も比較対象とした。以上の点から、本研究では「薬剤師」「医師」「看護師」「コンビニ店員」「カウンセラー」の5つの職種について、職業価値観、イメージの2指標から比較検討を行うことを目的とする。

方 法

調査対象

2013年12月中旬に、総合私立大学1校の文系学部2学部の学生を対象とした調査を行った。授業時間内に調査協力を依頼し、承諾した者のみを対象とした。回答に要した時間は約15分であった。有効回答者数は138名(男性45名、女性92名、不明1名)、平均年齢は19.62歳(SD=0.94)であった。参加者の学年は1年生56名、2年生61名、3年生18名、4年生2名であった。

測定変数

薬剤師の職業価値観 薬剤師の仕事に対する価値的な側面を測定することを狙いとして作成した尺度である。他の職種との比較を行うために、本研究では菰田(2006)の様な一般的な職業価値観を測定する尺度を参考に、以下の手順で項目作成を行った。まず初めに職業価値観に関する先行研究を踏まえ、「内在的価値(内面的関わり)」対「外在的価値(社会からの評価)」、「個人」対「他者との関係」の2軸4象限を設定した(図1)。そして4つの象限に該当する4側面、すなわち「自己価値(興味・関心)」「対人関係」「社会的評価」「労働条件」を測定するための項目作成を行った。次にこれらの項目に加え、専門職として求められる「専門性」を問う項目を追加で作成した。以上の手順により、「自己価値(興味・関心)」「対人関係」「社会的評価」「労働条件」「専門性」の5側面を各側面5項目ずつで測定することを想定した25項目の尺度を作成した。

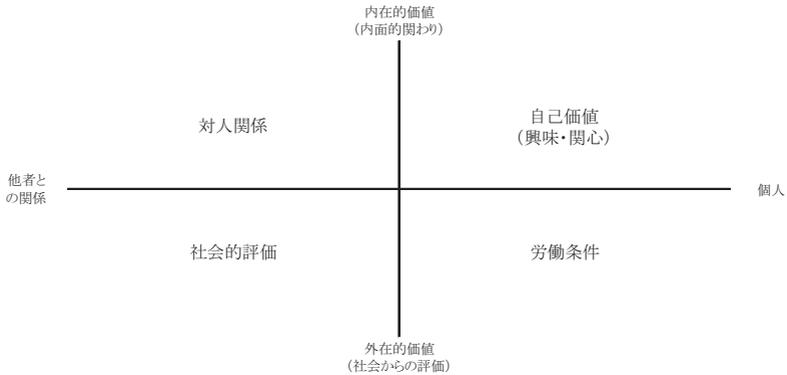


図1 職業価値観の概念図

教示文として「○○(仕事名を提示)という仕事は、どのようなものだとお考えですか？現実の職務内容に関わらず、あくまでイメージについてお答えください」と提示し、「非常にあてはまる(6)」～「全くあてはまらない(1)」の6件法で回答を求めた。本研究では「薬剤師」「医師」「看護師」「カウンセラー」「コンビニ店員」の5つの仕事を比較検討するため、それぞれの仕事についての評価を個別に求めた。

薬剤師のイメージ 薬剤師に対する単純なイメージを測定することを狙いとして作成した尺度である。医療専門職に対するイメージの測定については、和田・小林・井上・大石(1999)や江口・寺澤(2006)が、看護師を対象とした研究ではあるが、先行研究の概念的な整理を行っている。そこで本研究では和田ら(1999)や江口・寺澤(2006)のほか、イメージの測定に関する研究を整理している井上・小林(1985)などを参考に25項目からなるイメージ測定項目を作成した。

教示文として「○○(仕事名を提示)について、あなたはどのようなイメージを持っていますか？」と提示し、「非常にあてはまる(6)」～「全くあてはまらない(1)」の6件法で回答を求めた。本研究では「薬剤師」「医師」「看護師」「カウンセラー」「コンビニ店員」の5つの仕事を比較検討するため、それぞれの仕事についての評価を個別に求めた。

分析と結果

尺度構成

職業価値観の探索的因子分析 職業価値観を測定する25項目を対象に、探索的因子分析を適用した(IBM SPSS Statistics 21.0)。分析においては薬剤師のみならず、全ての仕事に対する回答を分析の対象とした。なお、項目の欠損値については、SPSS上で平均値置換をオプション指定した。初期の固有値における減衰状況を見ると、第1因子から第5因子にかけて11.52, 2.83, 2.17, 1.02, 0.79となった。そこで因子数を4とし、主因子法で共通性を推定した。因子寄与率は63.87%であった。因子軸の回転ではPromax法を適用した。本研究では、因子パターンの値が各因子で ± 0.40 以上であった24項目を解釈の対象項目とした(表1)。

第1因子は「正確性が求められる仕事である」「世間からの評価が高い仕事である」など、主として『専門性』や『社会的評価』などの側面を示す10項目の値が高かった。そこで解釈可能性から、本因子を『社会的評価・専門性』と命名した。第2因子は「人と向き合う仕事である」「人とのつながりが必要な仕事である」など5項目の値が高かった。これらは全て項目作成時に「対人関係」の側面として想定した内容であることから、『対人関係』とした。第3因子は「休日を取りやすい仕事である」「私生活との両立が可能な仕事である」などの3項目の値が高かった。いずれも休日などに関係した労働条件を示す項目であることから、『労働条件』と命名した。第4因子は「個性が活かせる仕事である」「可能性が広がる仕事である」など、6項目の値が高かった。これらの項目は自分自身の価値づけを示すものが中心であったことから、本因子を『自己価値』と命名した。

各因子についてそれぞれの因子の尺度を構成し、信頼性係数(α 係数)を求めた結果、第1因子から順に0.95, 0.88, 0.83, 0.89となった。構成し

表 1 職業価値観の探索的因子分析と尺度構成結果

想定因子	項目	社会的評価 ・専門性	対人関係	労働条件	自己価値	共通性	平均値	SD
労働条件	安定した収入が得られる仕事である	1.02	-0.04	0.13	-0.19	0.71	4.28	1.45
労働条件	高い報酬が得られる仕事である	0.98	-0.10	0.01	-0.09	0.78	4.20	1.59
専門性	正確性が求められる仕事である	0.93	0.05	0.06	-0.08	0.57	4.82	1.30
専門性	厳密(ちみつ)さが求められる仕事である	0.89	-0.01	-0.03	-0.28	0.72	4.66	1.37
社会的評価	社会的権威がある仕事である	0.81	-0.15	0.05	0.07	0.62	3.82	1.46
社会的評価	世間からの評価が高い仕事である	0.80	-0.05	-0.03	0.15	0.81	4.46	1.47
社会的評価	社会的ニーズが高い仕事である	0.73	0.18	0.02	-0.12	0.52	4.80	1.21
社会的評価	社会的貢献度の高い仕事である	0.72	0.18	-0.03	0.00	0.69	4.98	1.21
社会的評価	他人から尊敬される仕事である	0.70	0.06	-0.03	0.19	0.77	4.34	1.47
専門性	専門性が高い仕事である	0.64	-0.04	-0.11	0.29	0.80	4.75	1.67
対人関係	対人関係	0.06	0.87	0.03	-0.15	0.63	5.11	1.13
対人関係	人と向き合う仕事である	0.08	0.85	0.12	0.04	0.75	4.76	1.27
対人関係	人とのつながりが必要な仕事である	0.17	-0.74	0.17	0.13	0.49	2.59	1.43
対人関係	人との関わりが薄い仕事である(逆転項目)	-0.03	0.62	0.04	0.32	0.69	4.44	1.46
対人関係	親密に話す機会が多い仕事である	0.03	0.49	-0.06	0.39	0.70	4.78	1.32
労働条件	信頼関係の構築が必要な仕事である	-0.11	-0.02	0.83	0.10	0.75	3.21	1.50
労働条件	休日が取りやすい仕事である	-0.15	0.07	0.78	0.10	0.62	3.74	1.46
労働条件	私生活との両立が可能な仕事である	0.14	-0.06	0.76	0.08	0.54	3.30	1.55
労働条件	勤務時間が規則的である	-0.16	0.00	0.09	0.77	0.43	3.70	1.38
自己価値	個性が活かせる仕事である	0.33	-0.11	0.00	0.55	0.57	4.29	1.26
自己価値	可能性が広がる仕事である	0.38	0.07	0.03	0.52	0.74	4.55	1.28
自己価値	成長できそうな仕事である	0.34	0.08	-0.04	0.50	0.71	4.58	1.29
専門性	やりがいが見いだせる仕事である	0.22	0.09	-0.07	0.48	0.53	4.60	1.33
専門性	問題解決が求められる仕事である	0.44	0.00	-0.03	0.45	0.68	4.63	1.35
専門性	能力を活かせる仕事である	0.23	0.03	0.38	-0.25	0.15	3.64	1.29
因子	ルーチンワークが多い仕事である	社会的評価 ・専門性	対人関係	労働条件	自己価値	α係数	平均値	SD
社会的評価・専門性	社会的評価・専門性	—	0.40**	-0.34**	0.77**	0.95	4.51	1.20
対人関係	対人関係	0.39	—	-0.30**	0.61**	0.88	4.70	1.09
労働条件	労働条件	-0.42	-0.39	—	-0.23**	0.83	3.42	1.30
自己価値	自己価値	0.68	0.64	-0.25	—	0.89	4.39	1.06

注1:主因子法の繰り返しで共通性を推定。Promax法で因子軸を回転した。

注2:相関行列の下の三角は因子間相関、上三角は尺度間相関である。(**: $P < 0.1$)

注3:凡数字は総点を項目数で割っている(逆転項目は処理済)。

た尺度間の相互の相関関係は、『労働条件』『自己価値』間の尺度間相関が-0.23と最も低く、『社会的評価・専門性』『自己価値』間の尺度間相関が0.77と最も高かった。

イメージの探索的因子分析 イメージを測定する25項目を対象に、探索的因子分析を適用した(IBM SPSS Statistics 21.0)。分析では職業価値観の測定同様、全ての仕事に対する回答を対象とした。項目の欠損値については、SPSS上で平均値置換をオプション指定した。初期の固有値における減衰状況を見ると、第1因子から第5因子にかけて8.05, 4.20, 2.24, 1.32, 0.85となった。因子の解釈可能性から因子数を3とし、主因子法で共通性を推定した。因子寄与率は52.58%であった。因子軸の回転ではPromax法を適用し、因子パターンの値が各因子で ± 0.40 以上であった24項目を解釈の対象項目とした(表2)。

第1因子は「知的な」「勤勉な」「理性的な」など、知的なイメージに該当するであろう11項目の値が高かった。そこで、本因子を『理知的』と命名した。第2因子は「明るい」「あたたかい」「親しみやすい」など、7項目の値が高かった。これらは仕事に対するイメージとして考えた場合、いずれも人当りの良さなどを示す項目であると考えられることから、『対人親和的』と命名した。第3因子は「強情な」「わがままな」など6項目の値が高かった。仕事に対するイメージとの関連でみると、これらの項目は自己主張的な側面を示す項目であると考えられる。このことから、本因子を『自己主張的』と命名した。

各因子についてそれぞれの因子の尺度を構成し、信頼性係数(α 係数)を求めた結果、第1因子から順に0.90, 0.87, 0.77となった。構成した尺度間の相互の相関関係は、『対人親和的』『自己主張的』間の尺度間相関が0.20と最も低く、『理知的』『自己主張的』間の尺度間相関が0.57と最も高かった。

両尺度の相関 本研究で構成した2尺度について、尺度間の相関を求めた(表3)。全体での結果についてみると、職業価値観の『社会的評価・専

表2 イメージの探索的因子分析と尺度構成結果

	理知的	対人親和的	自己主張的	共通性	平均	SD
知的な	0.94	-0.11	-0.02	0.81	4.48	1.53
勤勉な	0.86	-0.07	0.07	0.74	4.37	1.46
理性的な	0.77	-0.03	-0.03	0.56	4.33	1.33
科学的な	0.74	-0.22	0.20	0.63	4.07	1.66
頼りがいがある	0.72	0.27	0.02	0.72	4.47	1.38
落ち着いた	0.61	0.23	-0.22	0.48	4.37	1.25
かたい	0.50	-0.46	0.32	0.55	3.67	1.46
複雑な	0.48	-0.09	0.41	0.52	3.84	1.49
穏やかな	0.46	0.43	-0.34	0.56	4.30	1.25
主体的な	0.43	0.15	0.27	0.40	3.72	1.34
充実した	0.42	0.39	0.15	0.49	3.96	1.20
明るい	-0.23	0.86	0.13	0.64	4.01	1.23
あたたかい	0.14	0.78	-0.10	0.72	4.27	1.26
親しみやすい	-0.08	0.76	-0.04	0.56	3.86	1.36
活発な	-0.24	0.74	0.38	0.54	3.67	1.23
親切な	0.39	0.58	-0.24	0.65	4.53	1.22
積極的な	0.17	0.56	0.30	0.50	3.84	1.24
共感的な	0.28	0.48	-0.01	0.40	4.01	1.35
強情な	-0.04	0.02	0.73	0.51	2.91	1.31
強い	0.23	0.19	0.59	0.55	3.44	1.33
わがままな	-0.36	0.12	0.59	0.30	2.39	1.15
鋭い	0.21	-0.02	0.54	0.41	3.33	1.39
厳しい	0.35	-0.15	0.54	0.53	3.49	1.40
機敏な	0.10	0.36	0.43	0.35	3.52	1.22
地味な	0.08	-0.23	-0.01	0.05	3.54	1.21
因子	理知的	対人親和的	自己主張的	α 係数	平均	SD
理知的	—	0.41**	0.57**	0.90	4.15	0.99
対人親和的	0.39	—	0.20**	0.87	4.03	0.95
自己主張的	0.35	-0.07	—	0.77	3.18	0.90

注1: 主因子法の繰り返しで共通性を推定。Promax法で因子軸を回転した。

注2: 相関行列の下三角は因子間相関, 上三角は尺度間相関である。(**: $P < .01$)

注3: 尺度得点は総点を項目数で割っている。

表3 職業価値観とイメージの尺度間

	全体			医師			看護師		
	理知的	対人 親和的	自己 主張的	理知的	対人 親和的	自己 主張的	理知的	対人 親和的	自己 主張的
社会的評価・専門性	0.84**	0.32**	0.44**	0.61**	0.31**	0.17	0.63**	0.52**	0.10
対人関係	0.40**	0.58**	0.15**	0.33**	0.36**	0.08	0.37**	0.51**	-0.11
労働条件	-0.24**	0.00	-0.23**	-0.05	0.26**	0.00	-0.01	-0.06	0.12
自己価値	0.79**	0.53**	0.36**	0.58**	0.50**	0.23**	0.67**	0.56**	0.16

**: $p < .01$ *: $p < .05$

門性』『対人関係』『自己価値』は、イメージの3尺度全てと正の相関がみられた。特に、『社会的評価・専門性』『理知的』間は0.84、『自己価値』『理知的』間は0.79と、非常に高い相関が得られた。なお、『労働条件』については『理知的』『自己主張的』間でそれぞれ-0.24、-0.23の負の相関が得られた。そして、『労働条件』と『対人親和的』間については無相関であった。

両尺度の関係性については職種によって相関が異なることが考えられるため、職種別に尺度間の相関を求めた。薬剤師を中心に結果を見てみると、特徴的であったのは『社会的評価・専門性』『対人親和的』間の相関であった。他の職種ではいずれも0.31~0.56の正の相関が得られたのに対し、薬剤師では『社会的評価・専門性』『対人親和的』間に有意な相関がみられなかった。その他の尺度間相関を見ると、『理知的』『労働条件』間の有意な正の相関は、薬剤師とカウンセラーのみにみられた傾向であった。また、薬剤師では『社会的評価・専門性』『対人親和的』間の相関は無相関であったが、『対人関係』『労働条件』『自己価値』と『対人親和的』間では、いずれも有意な正の相関がみられた。なお、『自己主張的』と職業価値観の下位尺度とは、ほとんど相関がみられなかった。唯一みられた『社会的評価・専門性』『自己主張的』の相関は、弱い負の相関(-0.19)であった。

両尺度の相関関係は、職種によって異なっていたが、薬剤師の社会的評価や専門性は、対人親和性とは関連しないとみなされていることが示唆された。

相関（全体と職種別）

薬剤師			カウンセラー			コンビニ店員		
理知的	対人 親和的	自己 主張的	理知的	対人 親和的	自己 主張的	理知的	対人 親和的	自己 主張的
0.62**	0.13	-0.19*	0.54**	0.56**	0.36**	0.76**	0.51**	0.63**
0.18*	0.58**	0.13	0.05	0.19*	-0.36**	0.38**	0.53**	0.39**
0.23**	0.21*	-0.07	0.21*	0.15	0.20*	-0.01	0.11	-0.19*
0.58**	0.30**	0.16	0.57**	0.62**	0.06	0.70**	0.46**	0.66**

職業別の平均値比較

職業価値観の比較 5つの職業(薬剤師・医師・看護師・カウンセラー・コンビニ店員)について、構成した職業価値観の下位尺度単位で平均値比較を行った。すなわち、職業を独立変数、職業価値観の下位尺度を従属変数とした一元配置分散分析を行った。分析の結果、下位尺度全てにおいて有意差がみられた。薬剤師を中心に多重比較の結果を見ると(表4)、『社会的評価・専門性』はカウンセラー・コンビニ店員よりも有意に得点が高く、医師、看護師と同程度であった。しかし『対人関係』については、薬剤師はコンビニ店員と同様、最も得点が低かった。『労働条件』については、コンビニ店員、カウンセラーと同様に最も得点が有意に高かった。そして、『自己価値』については医師、看護師と同程度の得点であり、カウンセラーに次いで有意に低く、コンビニ店員よりは有意に高い結果となった。

更に詳細な特徴を見るため、職業を独立変数、職業価値観の各項目を従属変数とした一元配置分散分析を行った。なお、分析では探索的因子分析においてどの因子にも高い負荷量が見られず、尺度から漏れた項目であった「ルーチンワークが多い仕事である」も分析の対象とした。分析の結果、全ての項目において有意差がみられた(分散分析の結果は Appendix 1 に掲載)。

表4 職業価値観の下位尺度得点(平均値)と分散分析結果

	医師	コンビニ 店員	薬剤師	カウンセ ラー	看護師	F値	多重比較
社会的評価・専門性	5.37	2.67	5.17	4.32	5.03	$F(4,678)=363.91^{**}$	医, 薬, 看>カ>コ
対人関係	5.01	3.69	3.90	5.60	5.32	$F(4,673)=174.17^{**}$	カ>看>医>薬, コ
労働条件	2.24	4.35	4.04	3.71	2.76	$F(4,673)=102.13^{**}$	コ, 薬, カ>看>医
自己価値	4.68	2.90	4.60	5.01	4.75	$F(4,673)=182.74^{**}$	カ>看, 医, 薬>コ

**: $p < 0.01$ 医=医師, 薬=薬剤師, 看=看護師, カ=カウンセラー, コ=コンビニ店員

職業別のプロフィールを図2に示す。

プロフィールからもみることが出来るように、薬剤師は『社会的評価・専門性』『自己価値』に関する項目については概ね、医師・看護師と同様に高い得点を示したが、その他の項目については医師・看護師とは大きく異なっていた。『対人関係』に関する項目についてはコンビニ店員と同様に低い得点を示し、『労働条件』に関する項目では、カウンセラーやコンビニ店員と類似した傾向を示した。

イメージの比較 5つの職業(薬剤師・医師・看護師・カウンセラー・コンビニ店員)について、職業を独立変数、イメージの下位尺度を従属変数とした一元配置分散分析を行った。分析の結果、下位尺度全てにおいて有意差がみられた(表5)。薬剤師を中心に多重比較の結果を見ると、『理知的』については医師と同程度に高く、他の職業と比べても有意に高かった。『対人親和的』については医師、コンビニ店員と同程度であり、看護師、カウンセラーと比べて有意に低かった。そして『自己主張的』では医師が最も有意に高く、それに次いで看護師と同程度の値であった。カウンセラー、コンビニ店員は看護師、薬剤師よりも有意に低かった。

更に詳細な特徴を見るため、職業を独立変数、イメージの各項目を従属変数とした一元配置分散分析を行った。なお、分析では探索的因子分析においてどの因子にも高い負荷量が見られず、尺度から漏れた項目であった「地味な」も分析の対象とした。分析の結果、全ての項目において有意差がみられた(分散分析の結果はAppendix 2に掲載)。職業別のプロフィールを図3に示す。

プロフィールからもみてとれるように、薬剤師は医師と比較的似た傾向

表5 イメージの下位尺度得点(平均値)と分散分析結果

	医師	コンビニ店員	薬剤師	カウンセラー	看護師	F値	多重比較
理知的	4.72	2.69	4.67	4.30	4.32	$F(4,677)=217.64^{**}$	医,薬>看,カ>コ
対人親和的	3.66	3.50	3.69	4.62	4.67	$F(4,683)=69.23^{**}$	看,カ>薬,医,コ
自己主張的	3.83	2.60	3.24	2.94	3.29	$F(4,681)=43.80^{**}$	医>看,薬>カ>コ

**: $p<0.01$ 医=医師,薬=薬剤師,看=看護師,カ=カウンセラー,コ=コンビニ店員

を示していた。『理知的』に該当する項目は比較的高い値であったが、『対人親和的』に該当する項目はやや低い値を示していた。そして、『自己主張的』に該当する項目では医師が高い値を示していたのに対し、薬剤師は中程度の値であった。また、『対人親和的』に関する項目では、コンビニ店員も医師、薬剤師と同程度の低い値を示していた。

考 察

構成した尺度について 本研究では、現在の薬剤師がどのようなイメージを持たれているのかを明らかにすべく、職業価値観とイメージを測定するための2つの尺度構成を行った。職業価値観の測定では5つの側面を想定して尺度を作成したが、結果としては4つの因子に収束する結果となった。ポイントになるのは「社会的評価」と「専門性」の項目であった。「対人関係」「労働条件」「自己価値」は、いずれも個別の因子としてまとまったが、「社会的評価」と「専門性」、そして「労働条件」の一部の項目については当初の想定とは異なり、1つの因子としてまとまる結果となった。社会からの高い評価や高い専門性、そして高い報酬や安定した収入に対する見方は、近年の学生においては同様のものとして認識されているようである。しかし、この点を除いては尺度としての内的一貫性も高く、概ね想定通りの尺度構成を行うことができた。

イメージについては、特定の側面を想定して構成したものではなく、先行研究において使用された項目の内、薬剤師の特徴をより捉えることが可能であると考えられる項目を抽出することによって尺度構成を行っている。結果として得られた3因子は『理知的』『対人親和的』『自己主張的』であった。これらの因子、特に『理知的』『対人親和的』については、薬剤師に求められるであろう要素を多分に含んでいるものと思われる。『自己主張的』については、項目内容からも薬剤師に求められる要素とはやや異なる側面であると考えられるが、後述する職種別の特徴を示す上では弁別性

を持つ因子であるものと思われる。

構成した両尺度間の相関は、『社会的評価・専門性』『自己価値』と『理知的』間が非常に高かった。項目内容からこれらの関連性を考えると、『理知的』に含まれるポジティブなイメージが『社会的評価・専門性』『自己価値』の内容と繋がったものと思われる。『社会的評価・専門性』『自己価値』間は相関が高いため、『理知的』と両尺度の相関は妥当なものであると考えられる。『対人関係』『対人親和的』間の比較的高い相関についても、項目内容を踏まえて考えると妥当な結果であるといえるだろう。

職種別の比較からみた薬剤師 本研究では現在の薬剤師に対するイメージを明確化すべく、他職種との比較を行った。構成した尺度による比較結果は、両尺度ともに職種ごとの特徴を明確に示していた。同じ医療人の枠組みに入る医師・看護師と比較すると、社会的評価が高く、専門性も高い仕事であるという点では同じ評価を得ている。しかし、人との繋がりが必要な仕事であるか否かという点では、評価が大きく異なっていた。医師・看護師と比べ、人と多く接する仕事ではないという評価となっている。このことは、「医療の現場ではなかなかその存在が見えづらい」という水巻(2012)の指摘とも合致する結果であると言えるだろう。『対人関係』の得点が薬剤師ではコンビニ店員と同等の低さであったという結果からも示されるように、薬剤師の業務対象が「モノからヒトへ」と転換しているにも関わらず、人との繋がりが求められる仕事であるという印象は薄いままであることが明らかになった。労働条件という点でも、医師や看護師とは異なりハードワークであるという印象が薄く、カウンセラーやコンビニ店員と同様、休日が取りやすく勤務時間が規則的な仕事であるという評価であった。つまり、同じ医療人でありながら、薬剤師は社会的評価や専門性は高いが、人と接する機会も少なく勤務時間も規則的なため、楽な仕事であるような印象を受けていた。現在の薬剤師の業務内容や実態とはかけ離れたイメージが定着しているようである。これらの一連の結果は、現在の薬剤師に対する一連の評価(三輪, 2012; 水巻, 2012など)といずれも合致する

ものであった。

イメージを測定する尺度からも、職業価値観と同様の結果を示すことができた。医師同様に理知的でかしいイメージが強い反面、対人親和的なイメージは弱く、冷たくて機械的なイメージが定着しているようであった。このことは、pill counter すなわち「薬を数えて渡すだけの人」というイメージが強く定着していることの表れかもしれない。少なくとも、医療人として対人援助を行うというイメージとは異なっているようであった。このような職種による違いは、2つの尺度間相関からも見ることができた。最も特徴的なのは『社会的評価・専門性』『対人親和的』との相関であろう。他の職種ではいずれも正の相関がみられていたが、薬剤師のみ相関がみられなかった。人と接する機会が低いイメージが、このような結果に繋がっているものと考えられる。

総括 本研究では薬剤師に対するイメージの実態を把握すべく、職業価値観・イメージの両尺度を構成し、職種別の比較を行った。結果として、薬剤師の在り方が変容しているなか、実際に捉えられているイメージはそれとは大きく異なっていることが示された。本研究で構成した両尺度は、職種別の比較からも顕著にその傾向を示しており、薬剤師の特徴を弁別する上でも十分な役割を果たしていた。このことは、構成した両尺度について一定の妥当性を示す結果であったと言えるだろう。

薬剤師に対する実態とは異なった認識が特に問題となるのは、医療の現場そして薬剤師教育の現場ではないだろうか。現在、薬剤師に対しては「ファーマシスト・サイエンティスト」という言葉が用いられている(乾, 2012)。これは医学教育改革において、医師が臨床医であるとともに研究者であることが挙げられていることに基づき、薬剤師に対しても同様に「薬剤師であるとともに科学者でもある専門家」として適用されている言葉である。本研究の結果から、サイエンティストとしての薬剤師のイメージはある程度見ることができた。しかし、医師が「医師＝臨床医」のイメージを強く持たれているのとは異なり、薬剤師の場合はやはり従前の

pill counter,あるいは「モノとしての薬」の専門家というイメージが強く、それに科学的なイメージが追加されていると考えるのが妥当な結果であった。

本研究の結果は文系私立大学生を対象とした結果であるが、様々な点で応用可能性のある結果を示すことができた。実態として起きていることとのイメージの違いについては、例えば、今後の薬剤師教育の在り方を検討するための基礎資料になりうるかもしれない。これについては、薬学部学生を対象とした調査や現職の薬剤師、あるいは一般人を対象とした調査などを蓄積することが必要であろう。本研究ではその基盤となる尺度構成を行うことができた。

薬剤師の職能将来像については、現在進行形でその在り方が議論されている最中であり、2014年1月26日に日本学術会議より「薬剤師の職能将来像と社会貢献」が提言として示されたばかりである。また、2013年6月に閣議決定された日本再興戦略では、薬局の在り方として、「薬局を地域に密着した健康情報の拠点として、一般用医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を行う等、セルフメディケーションの推進のために薬局・薬剤師の活用を促進する」ことが示されている(厚生労働省, 2014)。すなわち、薬局は地域に密着した健康情報の拠点として、セルフメディケーションの推進のために、一般用医薬品等の適正な使用に関する助言や健康情報に関する相談、情報提供等を実施することが求められている。薬剤師の今後のあるべき姿が、薬局などのフィールドと合わせて提言されているなか、実態がどうであることを示すことは、今後の薬剤師の在り方を考えていく上でも重要であろう。

引用文献

- 江口 瞳・寺澤孝文 (2006). 看護師イメージの因子構造と学年進行による看護師イメージ得点の変化 日本看護研究学会雑誌, 29(4), 71-80.
- 藤本喜八 (1982). 職業(労働)価値観の測定法について(その2) 進路指導研究, 3, 10-26.

- 井上正明・小林利宣 (1985). 日本におけるSD法による研究分野とその形容詞対尺度構成の概観 教育心理学研究, **33**, 253-260.
- 乾 賢一 (2012). 薬学6年制教育と薬剤師のこれから 月刊薬事, **54**(4), 19-22.
- 菰田孝行 (2006). 大学生における職業価値観と職業選択行動との関連 青年心理学研究, **18**, 1-17.
- 小海節美・津島ひろ江 (2007). 保健・看護職のキャリア発達に関する研究動向 川崎医療福祉学会誌, **17**(1), 185-193.
- 厚生労働省 (2014). 薬局の求められる機能とあるべき姿 平成25年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)薬剤師が担うチーム医療と地域医療の調査とアウトカムの評価研究報告書
- 三川俊樹 (1991). 日本の青年における職業(労働)価値観 カウンセリング研究, **14**, 27-36.
- 三輪亮寿 (2012). 法律からひも解く薬剤師の未来 月刊薬事, **54**(4), 23-27.
- 水巻中正 (2012). 社会から求められている薬剤師像とは 月刊薬事, **54**(4), 35-39.
- 村田節子・長家智子 (2000). 医療人を目指す学生の職業イメージに関する予備的調査 九州大学医療技術短期大学部紀要, **27**, 15-20.
- 内閣府政府広報室 (1993). 看護に関する世論調査 内閣府
- 日本学術会議 (2014). 薬剤師の職能将来像と社会貢献(提言) 日本学術会議薬学委員会 チーム医療における薬剤師の職能とキャリアパス分科会
- 和田佳子・小林ミチ子・井上正美・大石武信 (1999). 看護婦イメージに関する研究(1) 新潟県立看護短期大学紀要, **5**, 3-7.

Appendix 1 職業価値観の項目（平均値）と分散分析結果

	医師	コンビニ 店員	薬剤師	カウンセ ラー	看護師	F 値	多重比較
安定した収入が得られる仕事である	5.11	2.67	5.14	3.55	4.91	$F(4,685)=152.24^{**}$	薬、医、看>カ>コ
高い報酬が得られる仕事である	5.43	2.07	5.14	3.67	4.68	$F(4,684)=247.54^{**}$	医、薬>看>カ>コ
正確性が求められる仕事である	5.74	3.61	5.41	4.13	5.20	$F(4,685)=107.67^{**}$	医、薬>薬、看>カ>コ
緻密（ちみつ）さが求められる仕事である	5.49	2.86	5.40	4.36	5.20	$F(4,685)=182.49^{**}$	医、薬、看>カ>コ
社会的権威がある仕事である	4.70	2.19	4.62	3.45	4.12	$F(4,684)=115.07^{**}$	医、薬>看>カ>コ
世間からの評価が高い仕事である	5.30	2.30	5.13	4.38	5.16	$F(4,684)=241.74^{**}$	医、看、薬>カ>コ
社会的ニースが高い仕事である	5.45	3.56	5.07	4.75	5.19	$F(4,685)=73.09^{**}$	医、看>看、薬>薬、カ>コ
社会貢献度の高い仕事である	5.60	3.38	5.29	5.13	5.49	$F(4,685)=144.47^{**}$	医、看>看、薬>薬、カ>コ
他人から尊敬される仕事である	5.14	2.15	4.85	4.57	5.01	$F(4,684)=226.63^{**}$	医、看、薬>薬、カ>コ
専門性が高い仕事である	5.78	1.89	5.55	5.27	5.27	$F(4,682)=496.21^{**}$	医、薬>薬、看、カ>コ
人と向き合う仕事である	5.57	4.52	4.11	5.77	5.58	$F(4,685)=90.36^{**}$	力、看、医>コ>薬
人との関わりが不可欠な仕事である	5.06	3.78	3.98	5.63	5.36	$F(4,685)=91.11^{**}$	力、看>看、医>薬、コ
人との関わりが薄い仕事である（逆転処理済）	4.62	3.84	3.35	5.24	5.02	$F(4,685)=57.05^{**}$	力、看>看、医>コ>薬
親密に話す機会が多い仕事である	4.55	2.95	3.79	5.65	5.26	$F(4,684)=142.04^{**}$	力>看>医>薬>コ
信頼関係の構築が必要な仕事である	5.25	3.33	4.25	5.70	5.38	$F(4,684)=132.83^{**}$	力、看>看、医>薬>コ
休日が取やすい仕事である	1.80	4.35	3.89	3.53	2.47	$F(4,684)=109.22^{**}$	コ>薬、力>看>医
私生活との両立が可能な仕事である	2.59	4.88	4.07	4.05	3.13	$F(4,684)=72.74^{**}$	コ>薬、力>看>医
勤務時間が規則的である	2.33	3.81	4.16	3.54	2.68	$F(4,685)=42.93^{**}$	薬、コ>コ、力>看、医
個性が活かせる仕事である	3.32	2.73	3.62	4.72	4.12	$F(4,685)=54.41^{**}$	力>看>薬、医>コ
可能性が広がる仕事である	4.57	2.81	4.76	4.65	4.67	$F(4,685)=91.37^{**}$	薬、看、力、医、薬>コ
成長できそうな仕事である	4.93	2.98	4.77	5.03	5.03	$F(4,684)=105.84^{**}$	看、力、医、薬>コ
やりがいが見えやすい仕事である	5.09	2.93	4.78	5.12	5.01	$F(4,685)=123.88^{**}$	力、医、看>医、看、薬>コ
問題解決が求められる仕事である	5.04	3.07	4.67	5.41	4.78	$F(4,685)=99.46^{**}$	力>医、看>看、薬>コ
能力が活かせる仕事である	5.15	2.88	5.01	5.18	4.93	$F(4,684)=125.74^{**}$	力、医、薬、看>コ
ルーチンワークが多い仕事である	3.36	4.20	3.78	3.20	3.63	$F(4,679)=13.40^{**}$	コ>薬、看>看、医>医、力

**、 $p<0.1$ 医=医師、薬=薬剤師、看=看護師、カ=カウンセラー、コ=コンビニ店員

注:「人との関わりが薄い仕事である」については、得点を逆転処理している。

Appendix 2 イメージの項目（平均値）と分散分析結果

	医師	コンビニ 店員	薬剤師	カウンセ ラー	看護師	F値	多重比較	
理知的	知的な	5.45	2.21	5.23	4.70	4.80	$F(4,683)=237.55^{***}$	医、薬>看、カ>コ
	勤勉な	5.27	2.45	5.14	4.38	4.62	$F(4,685)=161.30^{***}$	医、薬>看、カ>コ
	理性的な	4.88	2.83	4.81	4.74	4.37	$F(4,685)=84.73^{***}$	医、薬、カ>看>コ
	科学的な	5.35	2.05	5.25	3.40	4.29	$F(4,684)=206.77^{***}$	医、薬>看>カ>コ
	頼りがいがある	4.89	2.63	4.77	5.04	5.00	$F(4,684)=137.58^{***}$	カ、看、医、薬>コ
	落ち着いた	4.37	3.23	4.64	5.03	4.56	$F(4,684)=52.69^{**}$	カ>薬、看、医>コ
	かたい	4.93	2.71	4.41	3.10	3.17	$F(4,685)=88.43^{**}$	医>薬>看、カ>カ、コ
	複雑な	4.75	2.52	4.35	3.91	3.69	$F(4,684)=59.00^{**}$	医、薬>カ、看>コ
	穏やかな	3.73	3.42	4.38	5.15	4.80	$F(4,682)=61.99^{**}$	カ>看>薬>医、コ
	主体的な	4.28	2.66	4.04	3.80	3.82	$F(4,683)=35.47^{**}$	医、薬>薬、看、カ>コ
対人親和的	充実した	4.04	2.99	4.20	4.13	4.41	$F(4,684)=35.73^{**}$	看、薬、カ>薬、カ、医>コ
	明るい	3.41	3.96	3.55	4.33	4.81	$F(4,685)=36.21^{**}$	看>カ>コ>薬、医
	あたたかい	3.76	3.51	3.86	5.18	5.04	$F(4,685)=75.04^{**}$	カ、看>薬、医、コ
	親しみやすい	3.09	3.59	3.42	4.64	4.56	$F(4,685)=46.09^{**}$	カ、看>コ、薬>薬、医
	活発な	3.41	3.64	3.23	3.76	4.33	$F(4,685)=17.51^{**}$	看>カ、コ、医>医、薬
	親切な	4.29	3.57	4.36	5.22	5.21	$F(4,685)=61.06^{**}$	カ、看>薬、医>コ
	積極的な	3.91	3.04	3.59	4.30	4.38	$F(4,684)=32.42^{**}$	看、カ>コ>薬、医>コ
	共感的な	3.80	3.15	3.80	4.88	4.39	$F(4,684)=39.68^{**}$	カ>看>薬、医>コ
	強情な	3.64	2.49	2.94	2.70	2.80	$F(4,684)=16.70^{**}$	医>薬、看、カ>看、カ、コ
	強い	4.24	2.47	3.50	3.27	3.72	$F(4,682)=39.84^{**}$	医>看、薬>薬、カ>コ
自己主張的	わがままな	2.37	2.64	2.41	2.12	2.38	$F(4,685)=3.63^{**}$	コ、薬、看、医>薬、看、医、カ
	鋭い	4.18	2.57	3.42	3.18	3.33	$F(4,685)=27.80^{**}$	医>薬、看、カ>コ
	厳しい	4.64	2.46	3.69	3.04	3.62	$F(4,685)=62.86^{**}$	医>薬、看>カ>コ
	機敏な	3.88	2.99	3.47	3.36	3.92	$F(4,685)=15.28^{**}$	看、医>薬、カ>カ、コ
	地味な	3.35	3.72	4.02	3.59	3.05	$F(4,685)=13.80^{**}$	薬、コ>コ、カ、医>医、看

***: $p < 0.01$ 医=医師, 薬=薬剤師, 看=看護師, カ=カウンセラー, コ=コンビニ店員